

「学 思 行 相 須 つ」

毎年、学生が本校で教育実習をしています。実習の最後にはたくさんの先生が見守る中で授業をします。期間中、実習生が最も緊張する場面です。私も遠い昔に経験しました。今年は社会科と英語科の実習があり、両方の授業を参観しました。

社会科は、とにかく覚えることが多くて、学生時代に苦労した記憶があります。年代を語呂合わせて覚えて、「鳴くよ(794)ウグイス平安京」などは、今でも口をついて出てきます。「いい国(1192)作ろう鎌倉幕府」は、近年の研究によって「いい箱(1185)」に変わった(諸説あり)と聞いて、衝撃を受けました。

タイトルの「学 思 行 相 須 つ」は、儒学者の細井平洲の言葉です。細井平洲は、「成せばなる 成さねばならぬ何事も 成らぬは人の 成さぬなりけり」で有名な米沢藩第九代藩主 上杉鷹山の師でした。「学思行相須つ」の意味は、「学び、考え、行動することの三つがそろって初めて学んだことになる」ということです。

2 社会科の授業では「大正デモクラシー」の学習をしていました。男性に選挙権が与えられた、平塚らいてうが女性の権利を主張した、というような内容です。女性の地位が今よりもずいぶん低かった時代ですが、今とでは、この学校の校長先生は女性ですね、と私のことも取り上げながら進み、生徒にとっては大昔だと感じていた大正時代が、ぐっと身近なテーマになりました。



細井平洲の教えに従うなら、大正時代から今日までの女性の地位向上や国民の権利獲得の歴史を学び、そのことを自分の生活に結び付けて考え、今後の人生で出会ういろいろな選択の場面で活かすことが、この授業のゴールとなります。「大正デモクラシー、参政権、平塚らいてう」という単語の記憶だけではなく、生きて働く知識として身に付けることが大事、ということでしょう。このことは、実は現行の指導要領とも合致しています。

3 年生は広島への修学旅行を目前にして、平和学習に取り組んでいます。現地での学びの上に、「学思行相須つ」となるように期待しています。



スポーツテスト！去年の記録をこえたかな？



1年生と仲良くする会！小学生と中学生と一緒にゲームをして楽しい時間をすごしました。



小1～中1までの縦割り班で行う、『わくわく清掃』始まりました。



お昼休みには小学校1年生たちが、お話を聞いてもらいたくて上代先生を取り囲んでいます。